2016年度 環境技術産学公民連携公募型共同研究事業（2014年度からの共同研究）

共同研究事例Ⅲ

共同研究者
学校法人国際大学
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究

「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

安全・安心で質の高い社会の構築

概　要

地域コミュニティは、環境保全など身近な地域社会の課題を解くためのカギのひとつです。

しかし、少子高齢化、単身世帯化、ライフスタイルの多様化等が進む中では、地域コミュニティの活性化に不可欠な住民相互の（環境）コミュニケーションの維持発展は難しく、今後は地域コミュニティの課題解決力の低下も懸念されます。

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）（東京都港区）と川崎市は、「環境」を主な切り口とし、川崎市の過去と現在との比較を素材としながら、地域社会におけるコミュニケーションを活性化する効果的な方法やプロセスの確立を目指し、2014年から共同研究を行っています。

2014年度は、素材となる本市の過去の写真や映像等の社会的リソースの収集を行い、資料として編集、その活用方策を研究しました。

2015年度は、市民にとって最も身近な環境問題の1つである「路上ゴミ」に焦点を当て、多様な市民の参加によるワークショップを開催し、その中で調査やデータの見える化を行い、課題認識における社会的リソースの有効性や課題共有によるコミュニケーションの促進について研究を進めました。

最終年度となる2016年度は、地域の課題解決に向けた市民の自発的行動の誘発を目的に、ゴミ拾い活動の地域団体や地元商店街の協力のもと、ワークショップを開催、川崎駅前の対象エリアでゴミ拾いや実態調査を行い、自分たちが作成したデータ、川崎市のデータを用いながら、路上ゴミ対策、美化方策を検討し、実際に実験・検証を行う中で、コミュニケーションの促進による地域の課題解決へのプロセスをまとめました。

この研究により、身近な環境課題に対する地域コミュニティの活動の凡例やその効果等が示されることで、こうした活動が普及展開することが期待されます。

川崎市の持つ資源	共同研究者の持つ資源
環境に係る過去から現在までの情報	地域コミュニケーションに係る知見
川崎市の過去の写真・映像等の資料	ワークショップ等に係る手法やノウハウ
市関係部署や市民団体等との連絡調整	オープンデータの活用や情報発信・普及に係る手法

2014年度　環境情報・写真データの収集・整理

市が保有する過去の市政ニュース映像や市内在住の写真愛好家が撮影した市内の風景写真から過去の川崎市の様子が分かるものを収集し、ワークショップを開催し、それら映像・写真素材が環境コミュニケーションを活発化させることを確認しました。

過去のニュース映像

以前の風景写真

ワークショップ

2015年度　路上ゴミのオープンデータ作成と可視化

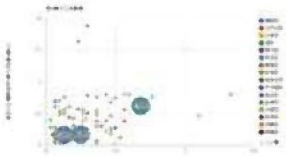
路上ゴミを題材に、オープンデータ作成ワークショップを、川崎駅周辺、鷺沼駅周辺、新百合ヶ丘駅周辺の3箇所で実施しました。

ゴミ拾いから地域を考え対話するワークショップ

ごみ拾い調査で得られたデータ

データ①（通り別の状況）

データ②（路上ごみの内訳）


データ③（ごみ量で見る地域比較）

2016年度　実態調査に基づく課題解決実験と研究の総まとめ

対象地域の路上ゴミの実態を把握し、その路上ゴミを減らす実験を行うことで、環境情報に基づく街のあり方に対する考察と環境コミュニケーションを深めました。

ワークショップ「ゴミ拾いとマチのデザイン」の風景